# 三櫻工業株式会社 第 114 期定時株主総会 質疑応答

実施日時：2022 年 6 月 22 日（水）10:00～10:34

Q1. 今後、内燃機関車は減少傾向に向かうと言われている。現在の売り上げ構成比に対し、2030 年はどのようになると見込んでいるのか

A1. 予想される内燃機関車の減少に備え、各自動車 OEM の EV、PHV、FCV の開発・地域別戦略には注視している。
2021 年に開示した中期経営方針において、2030 年の既存事業での売上目標を 1,200 億円として設定している。2030 年以降に関しては、自動車業界の動向を精査しながら戦略的に受注し、売上拡大につなげていく。

Q2. 為替レートの考え方と、円安がもっと進んだ場合に懸念される点は。

A2. 今期の業績予想は 1 ドル 115 円、1 ユーロ 130 円で設定している。
昨年までの想定では、円安は利益を押し上げる効果があった。日本円が他通貨に対して 1 %円高もしくは円安の方向に振れた場合、営業利益で凡そ 2 億円の振れ幅になると予想していた。
現在の足元の状況下では相当円安が進んでいるが、昨年から続いている北米事業の赤字により円の換算レートが悪くなっており、足を引っ張る懸念がある。
このほか、昨年からの全世界での大幅なインフレーション傾向にあり、海外では材料調達費が高騰し、国内でも円安に伴う材料輸入時の資源高が発生している。今期は、円安のメリットは縮小する可能性もあるため、よく注視しながら全世界での地産地消を進めていく方針。

Q3. 従業員の平均年齢と男女比を教えてほしい。

A3. 男女比の構成については、凡そ半分対半分の比率になっている。製造業だからと言って男性比率が大きくなるわけでは無く、女性の方が多い部署も存在する。
平均年齢は 40 歳を少し越えた辺りにある。新人の採用より、専門職の中途採用を増やしており、平均年齢が少し上がって来ている。

Q4. 全固体電池の開発は行っているのか。

A4. 全固体電池に関する内容のうち、当社が出資している Solid Power 社に関連する内容については守秘義務契約があり回答を控えさせていただく。
バッテリー全般について、バッテリーパック・電池の中身・サーマルソリューションと関連した製品開発については継続して取り組んでいる。

Q5．サプライチェーンの混乱について、回復の見通しはあるか。

A5．上海のロックダウンの影響によって、各 OEM で材料供給が滞る等の問題は発生しているが、当社では緊急対策チームを立ち上げて対策しており、今までサプライチェーンでの問題は発生していない。今後の見通しだが、新型コロナウィルス感染症の影響は非常に予測しづらいものがある。昨年から継続している IC チップの供給問題も、今年 1 年は不安定な状態が続くと想定している。

以上